

読売新聞 きょう（8月6日）のイチ押し

一面・社会面 安倍氏銃撃を検証「警護、安易な前例を踏襲」

安倍晋三・元首相が奈良市で演説中に銃撃されて死亡した事件で、警察庁は警護の検証の途中経過を発表しました。警護計画を策定した際、安易な前例踏襲で危険度について十分な検討が行われていなかった上、現場の警護員も連携不足で安倍氏の後方に隙を生じさせていたと批判しました。

- ★発表によると、安倍氏の警護は警察官十数人態勢。奈良県警が策定した警護計画では、同じ場所で6月に行われた自民党の茂木幹事長の演説時より、警護員を若干増やしましたが、後方の警戒態勢は同じでした。
- ★計画では3人の警護官がガードレールに囲まれた演説のエリア内に配置されていましたが、安倍氏の演説の直前に、後方の警戒を担当していた別の警護員がエリアに入り、主に前方の警戒に変更。配置変更の情報は共有されず、安倍氏の後方の警護に隙が生じました。

運動面 夏の甲子園大会きょう開幕 注目選手を紹介

全国高校野球選手権大会は6日に開幕します。投打に力のある好選手がそろいました。甲子園の「主役」となりそうな選手を紹介します。

最速149キロ右腕、近江の山田は気持ちを前面に押し出すタイプで「(準優勝した)選抜よりも、真っすぐの球威が上がった」と自信を見せます。新型コロナ集団感染で選抜を辞退した京都国際の左腕・森下は左肘の炎症の影響が心配されましたが、復調したようです。春夏連覇に挑む大阪桐蔭の左腕・前田は直球、変化球ともに完成度が高く安定感も十分です。

高松商の浅野は高校通算64本塁打の両打ちで、香川大会で3本塁打を記録。「印象に残るプレーをしたい」と語ります。ヤクルトの村上宗隆を兄に持つ村上慶太(九州学院)は恵まれた体で兄ゆずりの打撃を見せます。

他紙と比べて

関西経済面の「インタビュー広論」で、オタフクホールディングスの佐々木茂喜社長に話を聞きました。広島名物のお好み焼きに欠かせない「オタフクソース」で知られる会社のトップです。同社は1922年に創業して、100年にわたり一族で経営のバトンをつないできました。将来の事業継承に向けて「佐々木家家族憲章」を制定。6代目社長は「家族経営は日本の強み」と語ります。関西経済面では、関西だけでなく、中国、四国の経済界にもスポットを当てます。